

第2回府中市自然環境調査員会議

日時 平成25年1月17日(木)午後6時～

場所 府中駅北第2庁舎3階第2会議室

出席者 新井、石川、糸井、大澤、椛島、清田、小泉、後藤、佐川、内藤、野口(道)、野口(佑)、森田、山田委員 14名
(欠席者 橋本委員)

事務局 加藤環境政策課長、遠藤課長補佐、松本自然保護係長、関

議 題

1 学習会「生き物がそこにいる意味－生物多様性の考え方」

東京農工大学 農学部地域生態システム学科 助教 吉川 正人 氏

スライドを使用した講演会形式にて始まる。

「生き物がそこにいる意味－生物多様性の考え方」について、府中市について学習していく。

「地域(府中市)の生き立ちを知る」、「何が“貴重”か－保全すべき種の判断」、「植物群落の見方」と大きく3つの柱について学習していく。

「地域の生き立ちを知る」とは、生物の生育を調査するにあたり、現在の環境だけでは説明できないため、過去とのつながりを調べていかななくてはならない。つまり、その土地に生育する生き物は、その土地の生き立ちを反映しているということである。

武蔵野台地の地形から、府中市の位置を確認し、府中市の地形の構成要素が、段丘面(台地)、沖積低地、崖線、河川敷から構成されていたことを知る。

スライドにて、明治前期の府中市の土地利用(台地、沖積低地)について、甲州街道を境に確認する。

現在の浅間山と、明治15年(1882年)頃の浅間山、昭和14年(1939年)頃の浅間山と比較し、地域の生物相は過去からのつながりをもつことを知る。

つまり、地域の生物多様性とは、生き物から見た地域のアイデンティティであるということである。

「何が“貴重”か－保全すべき種の判断」では、環境省や東京都のレッドリストには違いがあり、掲載されていないものでも、府中市ではごく狭い範囲に分布が限られる種、個体数が少ない種がたくさんある。そのことから、地域の生物多様性保全のためには、地域の絶滅危惧種に目を向けることが必要である。

例として、府中市で絶滅危惧と思われる種は、「フタバムグラ」、「カラスビシャク」、「ジシバリ」、「トウダイグサ」である。

都市化が進んだ地域では、最近まで田畑や庭先の雑草であった植物が激減し、防除の対象であった“雑草”の多くが、今は保護すべき“野草”になっている。

つまり、地域の絶滅危惧種を判断することは、市民にこそできることである。

府中市の生物多様性保全上、重要な場所(ホットスポット)は、「浅間山、武蔵台の雑木林」、「多摩川の河川堤防、河川敷」、「四谷～南町、押立町などの水田地帯」、「多磨霊園などの大規模緑地」が挙げられる。

「植物群落の見方」について、植物群落=plant community、植物は無秩序に生えているわけではなく、生育に適した環境が似た種や、互いに共存できる種が集団をつくって生育している。

したがって、一定の環境のもとには、一定の種の組み合わせを持った植物群落ができる。植物群落の例として、多摩川の玉石河原では、「カワラノギク」、「カワラニガナ」、「マルバヤハズソウ」があり、これらは極端に高温で乾燥した環境に耐えられ、数年周期で破壊される立地で生活史を完結できる植物がある。

人家近くの半日陰では、「ドクダミ」、「ミズヒキ」、「ハナタデ」などがあり、弱い光でも生育でき、ある程度刈り取りに強い植物がある。

植物群落ができるイメージは、地域の植物相に「環境条件のふるい」と、「種間関係のふるい」をかけることによって決まってくる。

浅間山のコナラ林の種組成では、林床管理（下刈り）が行われている場所と、放置されている場所とで、同じコナラ林でも、管理（ふるい）の有無によって種形成が違ってくる。

これから植物相記録をするにあたり、植物群落（「森林群落」、「林縁群落」、「踏跡群落」）を意識することにより、植物と環境の結びつきや、植物同士の結びつきがわかってくる。植物群落を意識した観察・記録をすることにより、「植物にとって意味のある環境が見えてくる。」、「植物と動物（虫や昆虫）との関わりが見えてくる。」、「あるはずの種、ないはずの種が判断できる。」という利点があることがわかる。

以上のことから、地域の生物多様性を理解するために必要なのは、

① 地域の生い立ち（地史や土地利用履歴）を学ぶ

現在の生物相は過去からのつながりであり、その場所の多様性はその場所では守れない。

② きれいな花だけでなく、ありふれた雑草にも着目する

すべての生物が地域の生物多様性の構成員であり、絶滅危惧種を守るより、絶滅危惧種を増やさない。

③ 種のまとめ（植物群落）を意識する

植物群落はその場所の環境を理解する手がかりであり、生物多様性保全の基本は植物群落の保全である。

そして、「地域の自然を見守ることができる“目利き”になる。」ということである。

参加者からの質疑応答後、学集会終了

10分間の休憩後、大澤会長の司会で進行

2 自然環境調査について

<大澤会長> 本日の学習会で、自然環境調査員としての活動における、目安的なものがあったのではないのでしょうか。まずはフィールドに出てみて、みなさん一緒に観察していきましょう。

<事務局> レジメの順番が変わってしまいますが、3 府中環境まつり2013について実行委員の選出からお願いしたいと思います。人数は2名です。前身の緑の活動推進委員会では、自然体験コーナーとして「木の実細工コーナー」、「鳥の巣箱づくりコーナー」、「緑の活動推進委員会PRコーナー」、「草花の200円頒布」、「府中水辺の楽校PR」を行っていました。自然環境調査員会議として、何をPRしていくかはこれから決めていくものですが、まずは実行委員の選出をお願いします。

<大澤会長> いろいろな人をお願いしたいと思います。立候補がない場合には、こちらから推薦させていただきます。

立候補がないようですので、推薦させていただきます。佐川委員いかがでしょうか。もう1名は、清田委員いかがでしょうか。ネットワークづくりも兼ねて

よろしくお願いします。

<事務局> 府中環境まつり2013の開催日は、平成25年6月1日(土)です。雨天の場合は、翌日の2日(日)に順延となります。第1回目の実行委員の会議は、平成25年2月5日(火)18時から府中駅北第2庁舎3階第2会議室です。よろしくお願いします。会議は全5回程度予定しています。

<大澤会長> 第42回府中市民桜まつり展示PRコーナーについてですが、こちらの代表も佐川委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

<事務局> 第42回府中市民桜まつりの開催日は、平成25年4月6日(土)、7日(日)です。みなさんには、1日単位でどちらの日程か協力いただくようになりますので、よろしくお願いします。何をPRしていくかは、これから決めていきますが、ウォーキングマップと蓮の絵はがきの頒布等をお願いする予定です。

<大澤会長> 事務局から、2 自然環境調査について説明をお願いします。

<事務局> 自然環境調査についてですが、先程の学習会で「生き物がそこにいる意味—生物多様性の考え方」について吉川先生にお話ししていただきましたが、市民の方と一緒に調査していければと思っています。資料の「自然環境調査員の活動」に沿って、調査日、調査方法、調査対象について、ホットスポットを意識していただきながら、決めていただきたいと思います。

<大澤会長> 次に、自然観察会についてですが、ツバメの集団ねぐら観察会や、ウォーキングツアー等を含め、年6回程度を予定していますので、よろしくお願いします。調査方法についてですが、班を作って調査するか、調査員ごとに実施するかですが、まずはフィールドに出てみて、みなさん一緒に観察しましょう。場所は、武蔵台公園でいかがでしょうか。武蔵台公園は、武蔵台小学校と連携している部分もありますので、初めて観察するにはとても良い場所だと思います。

<野口(道)委員> 将来的な市民参加のための、基礎をつくるために30種類の調査をしていくのでしょうか。ホットスポットの調査は別に考えたほうが良いのでしょうか。

<大澤会長> 30種類にするかどうかは、今後の課題です。東京都と環境省では、多少違いもありますし、今回は植物と生き物(昆虫含)とをセットで観察して、ある程度みなさんで覚えていければ良いと思います。今回含め、何回かみなさんで観察をしてみて、基礎をつくっていければ良いのではないかと思います。

<野口(道)委員> 観察場所はどうしますか。ホットスポットは難しいのではないのでしょうか。何か所も調査するのは難しいと思っておりますので、一か所に絞ったほうが良いのではないのでしょうか。

<大澤会長> 一年目は学習しながら、みなさんで進めていけば良いのではないのでしょうか。昆虫も観察したいと思っておりますが、たくさん見られる場所を小泉委員ご存知ですか。

<小泉委員> 私はどこで何が見られるのか調査しているのではなく、何を見に行くのかでずっと観察を続けていますので、具体的な場所はわかりませんが、近々四谷付近の観察をしようと思っています。

<山田委員> では、武蔵台公園や浅間山はいかがのでしょうか。目標や焦点をどこに置くのかでも変わってくると思いますが。

<大澤会長> 武蔵台公園はシルバー人材センターとも協力していますので、良いのではないのでしょうか。私個人としては、毎月多摩川で野鳥と野草の観察を野口委員と行っています。みなさんの意見はいかがのでしょうか。

<野口(道)委員> 山田委員が言ったように、焦点をどこに置くかがポイントではないのでしょうか。

<大澤会長> まず、みなさんで一回、武蔵台公園で観察会を行いましょう。その後、目標や焦点をどこに置くのか決まってきたら、班にわけても良いのではないのでしょうか。梶島委員いかがですか。

- ＜椋島委員＞ 市民のみなさんに、この場所にはどういう生き物がいて、どういう絶滅危惧種があるとか、そういうことを説明できるようになれば良いのではないのでしょうか。一つずつ目標を決めて、一つずつやっていけば良いと思います。
- ＜山田委員＞ ウォーキングツアーの場所でも良いですね。
- ＜椋島委員＞ そうですね、市民のみなさんに、どういう情報を提供できるかがポイントですね。
- ＜小泉委員＞ 詳しく調査しすぎてしまうと、専門的になりすぎてしまいますから、気をつけなければいけないと思います。例えば、この場所では冬になると、どんな昆虫が見られるとか、そういうポイントで良いのではないのでしょうか。また、図鑑を見て、30年前はこんな昆虫が見られたけど、今はどうなのかということでも良いと思います。
- ＜内藤委員＞ 楽しみながら、特徴を覚えていければいいですね。「30種類の調査」、「植物群落」、「府中市の絶滅危惧種」の3点を意識して、半年くらいかけて勉強していくのはどうでしょうか。
- ＜大澤会長＞ 東京農工大学では、いろいろな種類が観察できるので、委員のみなさんで一度観察するのも良いですね。
- ＜新井副会長＞ 30年前の詳しいリストと比較する方法も良いと思います。おおよその目安にもなると思います。
- ＜大澤会長＞ 郷土の森博物館に、自然調査団が作った資料がありますが、とても見応えのある資料でした。
- ＜内藤委員＞ 中央図書館にも見応えのある資料がありますが、すごい資料でした。
- ＜小泉委員＞ 私も見ましたが、すごい資料ですね。ただし、1400種類の根拠がどう調べても見つからないです。
- ＜大澤会長＞ とにかくみなさんで一度、武蔵台公園の観察をしましょう。日時は、平成25年2月7日（木）午前9時からです。集合場所は、武蔵台文化センターです。
- ＜山田委員＞ 事務局で、武蔵台公園の白地図用意していただけますか。
- ＜事務局＞ 承知しました。
- ＜大澤会長＞ 情報提供になりますが、多摩川の市民観察会が、平成25年2月3日（日）野鳥観察、8日（金）野鳥観察、15日（金）野草観察とあります。集合場所は郷土の森博物館正門前、午前9時からです。ご都合のつく方は、是非参加してください。
- ＜事務局＞ みなさんありがとうございました。観察のスタートが冬になりますが、武蔵台公園で、本日の学習会を生かしながらやっていきましょう。資料の裏面に、ホットスポット含む調査場所の案がありますので、各自ご確認ください。
- ＜佐川委員＞ 府中環境まつり2013ですが、木の実細工を行うのであれば、府中市緑の活動推進委員だった方がボランティアのスタッフとして集められると思います。
- ＜事務局＞ よろしくお願ひします。詳細については後日決めていきますので、よろしくお願ひします。

3 府中環境まつり2013について 上記にて実行委員選出

4 第42回府中市民桜まつり展示PRコーナーについて 上記にて代表者選出

その他